

三沢の獅子舞

名称 三沢の獅子舞・雨乞いざさら
流派 下妻流・山遊びの型
護持団体 三沢獅子舞団
後援団体 三沢獅子舞保存会
昭和59年 皆野町無形文化財指定
奉納日 10月7日
奉納場所 諏訪神社境内

四囲にシメをはる
以前は、稲荷神社に竿掛一庭
翌日スリッカエシと称し古峰神社に奉納していました



演目

幣掛り(へいがかり)、割りざさら(わりざさら)、奥ざさら(おくざさら)、花割り(はなわり)、
竿掛り(さおがかり)、四つ替り(よつがり)、段ずく(だんずく)、四句割り(しくわり)、
下妻(しもづま)、瓢箪廻し(ひゅうたんまわし)、四庭寄せ(よにわよせ)
仲入りとして太神楽

会所から猿田彦命を先頭に道笛太鼓で獅子舞道中を行なっていました
(現在は社務所が会所のため行なっていない)

舞は四囲にシメをはり猿田彦命によって四方固めを行なった後に
始めました



幣掛り 最初の舞で神に奉げると云われています
竿掛り 稲荷神社に奉げる舞 竿にかかる所作
四句割り 三役ざさら 女獅子隠し

男獅子は刀をくわえ霧を払う
所作を行なう

下妻 三役ざさら
ねぶりざさら

瓢箪廻し 三役ざさら
四庭寄せ 結びの庭

付属芸能 二人づかいの太神楽獅子二頭に
て仲入りの時に舞いました

花笠



獅子舞の由来

慶安二年(1679)忍藩の殿様阿部豊後守の子孫下妻四郎兵衛なるものが当地に伝えたと云われています

その約百年後九代将軍の頃には、三沢の獅子舞は「雨乞いざさら」として知られており、寛延三年(1750)夏の大旱魃の際には請われて秩父へ出向いて獅子舞を奉納しています
また文政年間の干天のおり、領主阿部の殿様が、当獅子舞を秩父神社に奉納しました
このとき、その靈験があらたかであったため総縮緬の水引を下賜されました
この水引には井桁の中に三沢の三の字があしらわれております、井桁は阿部家の紋をお下げ渡しされたものと伝えられています

獅子の靈力

獅子頭は、文政年間に作られた一組と、明治二一年に大里郡川原明戸村の面師飯田竹次郎の作になる一組、計二組六頭があります

獅子には悪魔をはらい・厄をはらい・悪疫災禍を払う能力が秘められていると云われます
見るからに恐ろしい形相は他を屈服させずにはおかない趣があります

古老の言い伝えですが、昔当地に疫病が流行り多くの罹病者が続出し、その対策に困り果てて、獅子頭一組を川に流し疫病退治をしてもらおうということになり、大水を待ち、川に流したところ獅子頭が身代わりになったのか、疫病は瞬く間に影を潜めてしまったとのこと

獅子舞の中に「段づく」という舞があります
これは「ようすくい」ともいわれ、商家では商売繁盛の舞ということで大変喜ばれる獅子舞です

雨乞いについては、記録によると寛延三年（1750）7月22日に「秩父へ雨乞いのため獅子舞奉納」と記されています

文政年間にも干天のおり、領主阿部の殿様が、当獅子舞を秩父神社に奉納させています



また「幣掛り」といって、一番最初に舞う舞があります。

これは「神様に奉げる舞」といわれており、舞手は腰に「幣束」を差します、これを「腰幣」と言い、舞った者が持ち帰り、一年間神棚で拝むのが慣しです

舞は十一ありますが幣束を身に付けるのはこの舞だけです

諏訪神社
369-1411

元仁元年（1224）鎮座
皆野町大字三沢726番地

平成25年発行

諏訪神社
三沢獅子舞団
三沢獅子舞保存会